

○まるごと元気運動教室

【事業の内容】

NPOに委託し、健康運動指導士による体力測定の結果に基づいた体力別の3つのクラスで、頭と身体を連動させる手指の体操、足腰の筋力トレーニング、参加者同士の交流を深めるレクリエーションなどを組み合わせた運動教室を開催した。

【目標と実績】

	目標	実績
実施回数(回)	48	48
延べ参加者数(人)	1,400	1,261
参加者実人数(人)	45	42

・参加者アンケートでは、心身の改善効果を実感している人が多く、体力測定でも機能維持からやや改善が多い。

【課題】

・新規参加を促すPRが必要である。

【対応策】

・広報等の媒体を利用したの周知や、体験型のPRを推進していく。

○地域リハビリテーション活動支援事業

【事業の内容】

北空知1市4町の広域事業として、深川市立病院から作業療法士を派遣してもらい、各事業や訪問、ケア会議等を進めるうえで専門的知見から助言をもらい、町としての介護予防事業の内容の充実や要介護状態等にある人の在宅での自立支援の取組の強化を図った。

【目標と実績】

	目標	実績
作業療法士の派遣回数(回)	36	36
延べ訪問人数(人)	30	34

・来所相談や退院調整等で必要性がある方に紹介。主に身体機能に併せた住宅環境整備等早期から支援することで介護状態から自立へとなった方が2名いた。身体機能の評価が主となり認知・生活機能の評価したケースは少ない状況がある。

【課題】

・認知・生活機能評価に視点をあて残存機能維持・生活能力を高めていく必要がある。

【対応策】

・もの忘れ外来利用者や認知予防ソフト利用者等に地域リハビリテーション活動支援事業を紹介してい

◆高齢者の健康の保持増進

高齢者の健康寿命を延ばし生活の質を高めていくには、生活機能の保持・改善と要介護状態に結びつく疾病の予防等が両輪となって進んでいくことが必要。健康な人を対象にした健康づくりや疾病予防を推進するとともに、早期治療に結びつくよう疾病の早期発見や重症化予防のための事業を進めていく。

○ゴールド健診／○健診充実健診

【事業の内容】

≪ゴールド健診≫

75歳以上の方を対象に、身体測定、血圧測定、尿・血液検査、診察等を内容とする生活習慣病等の健康診断事業であるゴールド健診(春4日間、秋2日間)と、がん検診を含む総合的な検査ができる後期高齢者人間ドックを実施した。

≪健診充実健診≫

40～74歳の国民健康保険被保険者の方を対象とした、メタボリックシンドローム対策を内容とする生活習慣病等の健康診断(春4日間、秋2日間)と、がん検診を含む総合的な検査ができる人間ドックを実施した。また、健診結果をよりよい生活習慣改善に活かせるよう、生活習慣病のリスクが高い方には特定保健指導を実施した。

【目標と実績】

ゴールド健診	目標	実績
健診受診率(%)	22.6	26.3

健診充実健診	目標	実績
健診受診率(%)	54	50.7
特定保健指導実施率(%)	73	100

・特定健診を受診していた方が、75歳になってもひきつづき同様の健診を受けられるのでゴールド健診の受診数は微増しているものの受診率には大きく反映しにくい。

・住民健診受診者は、特定保健指導とは別に、健診当日に前年度データを利用した重点指導を実施。生活習慣病のメカニズムや行動変容につながる動機づけ面接として実施。

・生活習慣病の予防・コントロールのための健康教育を住民健診の場を利用し実施。

【課題】

・年齢とともに定期受診が必要な方が増え、「治療中」となるため、健診の利用を遠慮する方が多い。

【対応策】

・治療中でも健診受診が可能な旨、周知を広げる。(個別通知、未受診者訪問等)

・健診受診者が継続受診をするように、健診当日の個別相談の充実、健診事後訪問の充実をより図

○高齢者の受ける予防接種への一部助成

【事業の内容】

高齢者が受ける定期のインフルエンザ予防接種及び肺炎球菌予防接種の費用の一部助成を行った。

【目標と実績】

	目標	実績
インフルエンザ予防接種の接種率(%)	50	48
肺炎球菌予防接種の接種率(%)	30	39.8

・爆発的な流行もなく予防接種等により予防に繋がっていると思われる。

【課題】

・継続的な事業実施が求められる。

【対応策】

・例年通りの周知(広報、老人クラブ等)で実施する。

◆高齢者の社会参加の促進

高齢者が心の健康を保ち、いつまでも若々しい気持ちでいるためには、生きがいを持って日常生活を過ごすことが重要である。教育委員会と連携して、高齢者が趣味や特技、サークル活動を通じて地域と交流する場や、これまで得た経験や技能を生かした活動を通じて社会貢献できる場を提供するとともに、これらの活動を推進する団体等に対して支援を行っていく。

○高齢者大学「秩父別笑学校」

【事業の内容】

高齢者が楽しみながら知識・教養を得られる幅広い学習の場として、高齢者大学「秩父別笑学校」を開校した。

(授業内容)

第1回: マジック講演会～「趣味と生きがい」(FSC大会議室)

第2回: 生き生き講演会鑑賞～「お祭り芸能神楽団！ピーヒャラ」(小学校体育館)

第3回: 旭笑長屋 落語会(青年会館)

第4回: 「北方領土を知る秩父別町民のつどい」(FSC大会議室)

【目標と実績】

	目標	実績
授業数(回)	4	4
登録者(人)	55	49

・実験的に第2回目を「生き生き講演会鑑賞」とした。「生き生き講演会」は例年巡回小劇場を小・中学校で交互に実施しており、高齢者が普段行く機会のない小・中学校で児童・生徒と一緒に演劇等を鑑賞する機会を設けた。今後も続けたい。

【課題】

・高齢者の「元気」を引き出す手助けとなる「内容」または、「シチュエーション」の授業を展開してゆかなければならない。

【対応策】

・各種情報収集に努め、町内資源の活用や、教育委員会のみならず各課で行われている他事業と連携するなどの工夫をしていきたい。

◆適切なサービス提供の確保

要介護状態になった人が自分らしい生活を営むためには、効果的な介護サービスの提供による支援が不可欠である。介護サービスが必要な人を適切に認定し、真に必要とする過不足のないサービスが適切に提供されるよう促すとともに介護給付が適正に行われているかの確認を行っていく。また、今後不足が懸念される介護人材の不足に対応するため、介護人材の確保のための施策を推進する。

○要介護認定の適正化

【事業の内容】

変更認定や更新認定において認定調査を委託して行った案件について、認定調査の内容が適正か点検を行った。

【目標と実績】

	目標	実績
点検率(%)	100	100

・要介護認定においては各書類の不整合の有無や調査項目の選択が記載内容と併せて適切か確認。審査会提出前に確認しているため全件実施できている。調査員のキャリアの違いにより認識のずれで特記事項の記載の不十分さがあり確認を要している。

【課題】

・認定調査項目の選択が適切か確認する必要がある。

【対応策】

・認定調査項目の選択を特記事項の記載と合わせて不十分さがある場合は委託先の調査員に情報提供を行い適切な選択になるよう確認していく。

○ケアプランの点検

【事業の内容】

居宅介護支援事業所が作成したケアプランの内容が、適切かどうか確認を行った。

【目標と実績】

	目標	実績
点検率(%)	98	99.1

・ケアプランは12事業所から提出があり確認しているが時間を要している。点検では、利用者の状態に応じたケアプランが作成されていないと認められる場合には改善すべき情報提供・助言をしている。

【課題】

・ケアプラン点検の効率性を高め実施していく必要がある。

【対応策】

・ケアプラン作成で不十分だった内容について再度気づきを促し、自己点検するきっかけを作る取組にしていく。

○住宅改修の点検／○福祉用具の点検

【事業の内容】

≪住宅改修の点検≫

住宅改修費の申請時に工事見積や工事個所の写真による確認を行うとともに、施工後訪問により施工状況や利用者の状況を確認した。

≪福祉用具の点検≫

福祉用具貸与利用者、福祉用具購入者を訪問し、その必要性や利用状況の確認を行った。

【目標と実績】

住宅改修の点検	目標	実績
点検率(%)	90	94.4

福祉用具の点検	目標	実績
福祉用具貸与の点検率(%)	75	38.5
福祉用具購入の点検率(%)	80	81.8

・事後点検については、認定調査時や訪問時に実施した。

【課題】

・職員が限られていることから、おのずと稼働にも限りが出てくる。

【対応策】

・担当介護支援専門員や認定調査員等から利用状況を聞き取るなどして確認していく。

○縦覧点検／○医療情報との突合／○介護給付費通知

【事業の内容】

≪縦覧点検≫

北海道国民健康保険団体連合会に委託し複数月にまたがるサービスの利用状況を確認し、提供サービスの整合性の点検を行った。

≪医療情報との突合≫

北海道国民健康保険団体連合会に委託し医療保険の入院情報等と介護給付の状況を突合し、その整合性の点検を行った。

≪介護給付費通知≫

介護サービス利用者等に対し、サービスの請求状況・費用を通知した。

【目標と実績】

縦覧点検	目標	実績
点検数(件)	12	38

医療情報との突合	目標	実績
点検数(件)	30	7

介護給付費通知	目標	実績
実施率(%)	75	91.7

・縦覧点検・医療情報との突合は北海道国民健康保険団体連合会に委託し、全件点検を行った。

・介護給付費通知は平成30年度から実施し、毎月通知を発出するようにしているが、3月に通知予定の分のみ翌月の通知となった。

【課題】

・いずれの事業もその必要性の理解の深化に努めることが求められる。

【対応策】

・継続的に事業を実施し、必要に応じて実施方法を工夫する。

○介護職員初任者研修受講補助金事業

【事業の内容】

本町に所在する介護事業所に就業する意思があり、介護職員初任者研修を受講する町民に対し、その受講料を全額助成する。

【目標と実績】

	目標	実績
助成件数(件)	1	0

・平成29年度から事業実施しているが、平成30年度においては障害者介護事業所職員への補助案件はあったものの、介護保険サービス事業所の職員への補助案件はなかった。

【課題】

・制度の認知度の向上を図ることが必要。

【対応策】

・事業所向けに個別で制度の案内をするほか、町民向けに広報やHPを用いて制度の周知を行う。